

■ UMAPの概要及び設立の経緯

【UMAPの概要】

「アジア太平洋大学交流機構」(UMAP: University Mobility in Asia and the Pacific) は、高等教育分野における政府または非政府の代表からなる任意団体で、アジア太平洋地域における高等教育機関間の学生・教職員の交流促進を目的として、1991年(平成3年)に発足しました。

そして、1998年(平成10年)8月、バンコクで開催された第6回総会において、UMAP憲章(UMAP Constitution)が採択(その後、2001年(平成13年)、2005年(平成17年)、2013年(平成25年)に一部改正)されました。

同憲章において、UMAPの目的は「アジア太平洋地域内の高等教育機関間の協力を推進するとともに、学生と教職員の交流を増やし、高等教育の質を高めることによって、域内諸国・諸地域の文化・経済・社会制度の理解をさらに深めることである」と規定されています。また、UMAPの目標は、以下のとおり定められています。

- (1) 大学間交流促進の阻害要因を特定し、それを解決すること。
- (2) 参加国・地域における二大学間、多大学間及びコンソーシアムによる交流を促進すること。
- (3) 単位認定及び互換のためのシステムを開発し、整備すること。

【UMAP設立の経緯】

1991年(平成3年)、オーストラリア政府の協力のもと豪州大学長協会(AVCC)は、日本・韓国・台湾・香港の大学関係者を招き、アジア太平洋地域の教育分野の協力について話し合うための会議(1991年4月香港、同年9月キャンベラ)を開催しました。キャンベラの会議では18の国と地域が出席し、これらの参加国が集う会議を総会とすることを決議し、UMAP第1回総会となりました。その後、1998年(平成10年)8月にバンコクでUMAP第6回総会が開催され、以下の項目を可決しました。

- ① UMAP憲章の採択、② UMAP国際事務局の設立、③ 国際事務局を包括する国際理事会の設置、④ UMAP単位互換スキームの試行

なお、「UMAP国際事務局(UMAP International Secretariat: UMAP IS)」は、1998年(平成10年)4月に日本(東京大学駒場キャンパス内)に設置された後、2001年(平成13年)5月に(財)日本国際教育協会(現独立行政法人日本学生支援機構)東京国際交流館プラザ平成に移設されました。

その後、UMAP国際事務局は、2006年(平成18年)3月にタイ、2011年(平成23年)1月に台湾への移転を経て、2016年(平成28年)1月に再び日本(東洋大学内)に移転設置されました。日本での設置期間は、2020年(平成32年)12月末まで。